

2013年(平成25年)11月25日



▽山谷修作教授が
家庭ごみ有料
化で講演

◆東洋大学

東洋大学は、14日に同大学白山キャンパスで3R研究発表会を開催、当日は同大学経済学部の山谷修作教授が、家庭ごみ有料化の現状・成果・課題について講演した。山谷教授は、有料化は、ごみ減量・リサイクル推進の誘因、負担の公平性の確保、ごみ問題への関心の高まり、ごみ処理経費の削減、手数料収益に活用で意義があると指摘、全国で約55%の都市が有料化を行っている現状を説明した。有料化による減量効果については、2000年度以降に有料化を導入した市では、リバウンド効果が見られず、手数料水準が高いほど減量効果が大きくなるとした。最後に、全国的にはごみ量が減少し、3R意識が高まっているが、環境負荷の低減や稀少資源の有効利用のために、さらなる3Rを推進する必要があると結んだ。